

〔居間・事務所・店舗用〕

三菱ダクト用換気扇 (雑ガスセンサー自動運転タイプ)

グリル形式・色調	フラットインテリア・クールホワイト
形名	VD-18ZA10-FP

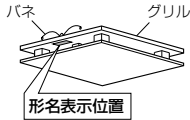
据付説明書

販売店・工事店様用

据付けを始める前にこの説明書をよくお読みになり、正しく安全に据付けてください。

別冊の「取扱説明書」はおお客様用です。必ずお渡しください。

- 据付け、壁穴工事はお買上げの販売店・工事店様が実施してください。
- 電気工事は電気工事士の方が実施してください。
- この製品は、居間・事務所・店舗の天井に据付けてください。それ以外の用途には使用しないでください。故障の原因となります。
- 形名によって据付方法が異なりますので、あらかじめご使用の形名をご確認ください。
- この製品には市販の埋込スイッチ、またはシステム部材のコントロールスイッチが必要です。その他屋外フードなどは三菱換気送風機総合カタログにより別途ご用意ください。
- 当社製以外の電子式スイッチ (半導体制御による速調スイッチ・タイマーなど) やホタルスイッチをご使用の場合は組合せ上、不具合が発生するおそれがありますので、ご使用の際はあらかじめご確認ください。
- 接続ダクトは外形寸法図に示すダクト径の塩化ビニル管・アルミフレキシブルダクト・鋼板管のいずれかをご用意ください。



1. 安全のために必ず守ること

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

警告	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性のあるもの	注意	誤った取扱いをしたとき、軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの
-----------	----------------------------------	-----------	--------------------------------------

本文中や本体に使われている図記号の意味は次のとおりです。

	禁止		水ぬれ禁止		分解禁止
	浴室での使用禁止		感電注意		指示に従う

警告

- **禁止** ● ガス漏れに気付いたときは、換気扇のスイッチの入・切をしない
爆発・引火の原因。
- **水ぬれ禁止** ● 製品に直接水やお湯、かび取り剤などをかけない
ショート・感電の原因。
- **分解禁止** ● 改造や工具を必要とする分解はしない
火災・感電・けがの原因。
分解・修理は修理技術者のいる販売店または当社のお客さま相談窓口にご相談ください。
- **指示に従う** ● 交流 100V を使用する
直流や交流 100V 以外を使用すると感電の原因。
- **指示に従う** ● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう据付ける
漏電した場合発火の原因。
- **感電注意** ● 電気工事の際、裸線に接触しない
感電の原因。

注意

- **禁止** ● 直接炎のあたるおそれのある場所や油煙・有機溶剤・可燃性ガスのある場所には据付けない
火災の原因。
- **浴室での使用禁止** ● 浴室など湿気の多い場所には据付けない
感電・故障の原因。
- **指示に従う** ● 据付けの際は必ず手袋を着用する
けがの原因。
- **指示に従う** ● 本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に
落下によりけがの原因。
- **指示に従う** ● 部品の据付けは確実に
落下によりけがの原因。
- **指示に従う** ● 電気工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に
接続不良や誤った電気工事は感電・火災の原因。

2. 据付け前のお願い

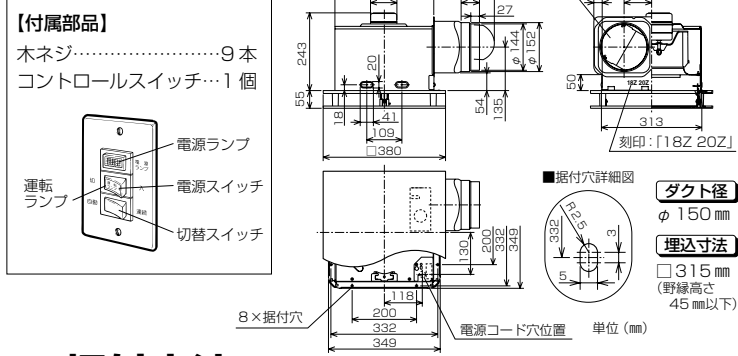
据付け

- ダクト用システム部材の使用については、地区により異なった規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁(特に消防署)にご相談ください。
- 高温 (40℃以上) になるところは据付けしないでください。早期故障の原因となります。
- 効果的な換気を行うために給気口を設けてください。
- 傾斜天井には据付けしないでください。シャッター開閉不良、振動、異常音の原因となります。
- 製品上部を断熱材などで覆わないでください。早期故障の原因となります。
- 同梱されているダクト接続口を使用してください。風量低下や異常音発生の原因となります。
- 製品据付位置はグリル側面と部屋の壁面を 150mm 以上すき間を開けてください。グリルの取りはずしがやりにくい原因となります。

天井・ダクト工事

- 天井材は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものをご使用ください。
- 排気ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外に向けて 1/100 以上の下り勾配をつけてください。
- 次のようなダクト工事はしないでください。風量低下や異常音発生の原因となります。
 - 極端な曲げ
 - 多数の曲げ
 - ダクト接続口のすぐそばでの曲げ
 - しぼり
- 排気ダクトの先端には、鳥などの侵入を防ぐためのベントキャップ、または雨水の浸入を防ぐための深形フード、外風が強いところでは耐外風フードなどのシステム部材を据付けてください。
- 次のようなダクト工事はしないでください。風量低下や異常音発生の原因となります。
 - 極端な曲げ
 - 多数の曲げ
 - ダクト接続口のすぐそばでの曲げ
 - しぼり
- 天吊金具を使用する場合、製品の着脱には天井裏での作業が必要です。天井裏での作業ができるよう製品の近くに点検口を設けてください。点検口がない場合、製品取替えなどで天井などを壊す費用は、お客様のご負担となります。

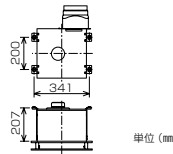
3. 外形寸法図



4. 据付方法

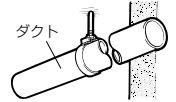
1 据付け前の準備

据付位置・壁排気穴位置を決め、市販の吊りボルト (M8) を 4 本埋め込む。(下図参照)



2 ダクト工事

壁排気穴から本体のダクト接続口までダクト配管する。
● ダクトは本体に力が加わらないよう天井より吊る。



3 本体を吊る

(野線を使用する場合は野線に据付ける場合を参照)

ダクト接続口と同梱されていますので下記作業を始める前に本体に据付けてください。

- 本体の穴とダクト接続口の内側のツメおよび、本体の立上り部とダクト接続口の引掛部がはまり込むように本体とダクト接続口を接続する。

お願い
● 複数台を同時に据付ける場合は、「3. 外形寸法図」に示す刻印・シャッター仕様のダクト接続口を間違えないように使用してください。

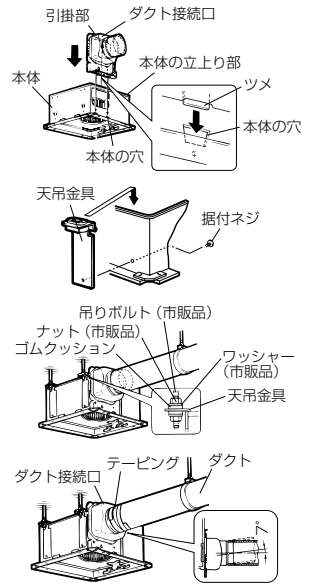
天吊金具 P-08TK (システム部材) を据付ける。
● 天吊金具を本体に引掛けて内側より据付ネジで固定する。

● 本体を水平にし、天吊金具を吊りボルトに据付ける。
● ナットがゆるまないよう市販のワッシャー・ナットにて確実に固定する。

ダクト接続口とダクトを接続する。

- 塩化ビニル管と接続する場合、ダクト方向の微調整が可能です。(全方向 A)
- 風漏れのないよう市販のアルミテープなどでテーピングする。

お願い
● ダクト接続をネジで行う場合はネジでダクトを接続する場合を参照してください。



4 電気工事 へ つづく

野線に据付ける場合

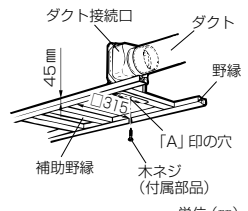
野線の強度が十分でない場合は天吊金具を兼用する

(1) 野線組立て

- 天井の野線と補助野線に据付枠を組む。
- ダクト接続口を据付ける野線は 45mm 以下にする。

● 野線高さを 45mm 以上で据付けると、シャッター開閉不良、異常音の原因となります。

- 天井がたわまないように、十分強度のある野線に据付けてください。
- 野線を組立てる際は、据付穴のピッチと据付穴の詳細図をご確認ください。B 寸法が大きいと、木ネジが垂直に打てなくなり、野線の割れによる固定不具合が発生します。



4. 据付方法 ③ 本体を吊る 野縁に据付ける場合 つづき

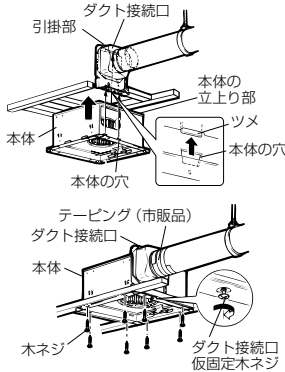
(2) ダクト接続口の固定

- ダクト接続口をダクトに差し込み野縁の角の直角に合わせ、すき間がないよう付属の本ネジ1本で仮固定する。(「A」印の穴を使用)
- 塩化ビニル管と接続する場合、ダクト方向の微調整が可能。(全方向7°)

お願い ●複数台を同時に据付ける場合は、「3.外形寸法図」に示す刻印・シャッター仕様のダクト接続口を間違えないように使用してください。

2 本体の差し込み

- 本体の穴とダクト接続口の内側のツメおよび、本体の立上り部とダクト接続口の引掛部がはまり込むように本体とダクト接続口を接続する。



3 本体の固定

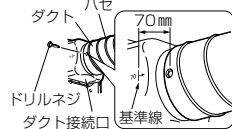
- (1) 本体がダクト接続口に密着していることを確認してから、付属の本ネジ8本で本体をすき間のないようにしっかり固定する。(すき間があると風漏れの原因)
- (2) ダクト接続口を仮固定している本ネジ1本を締付ける。
- (3) 風漏れのないよう市販のアルミテープなどでダクト接続部をテーピングする。

お願い ●ダクト接続をネジで行う場合はネジでダクトを接続する場合は参照してください。

4 電気工事 へつづく

ネジでダクトを接続する場合

- (1) 右図のように矢印から水平に70mmの位置に市販のドリルネジで固定する。スパイラルダクトでハゼ部が上記70mmの位置にくる場合は、矢印から水平に60mmの位置に固定する。●ドリルネジの長さはダクトの種類に合わせ、右表を参照してください。シャッター開閉や固定不良の原因となります。
- (2) 風漏れのないよう市販のアルミテープなどでネジの頭をテーピングする。



ダクト呼び径 φ150の場合	ネジ呼び長さ
150(スパイラルなど)	10
155~160	13
165(VP管など)	19

4 電気工事

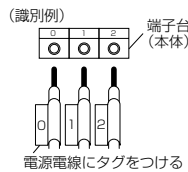
■電線工士の接続や接地工事を行う場合は電気工事士の方が「電気設備に関する技術基準を定める省令(および同解説)」および「内線規程」に従い実施してください。

お願い ●結線間違いや異電圧印加などの誤結線を行いますとモーターや制御回路が故障します。誤結線によるモーター、制御回路故障の場合、サービス費用(交換部品代含む)はお客様のご負担となりますので結線図を十分確認の上、結線してください。

■結線の前に

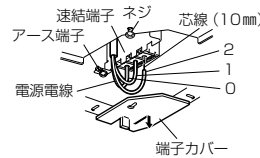
■電気配線の識別

- 電気結線を間違えるとモーターや制御回路が故障します。正しく結線するために、電気工事の際、各電源電線を識別できるようにしてください。

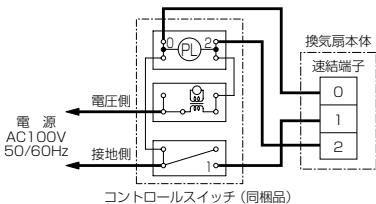


■結線方法

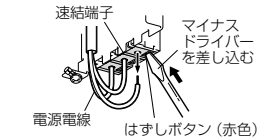
- ①本体上部のゴムプッシュより電源電線(屋内配線VVFケーブルφ1.6またはφ2)を通す。
- ②端子カバーのネジ1本をゆるめて端子カバーをスライドさせてあげ、速結端子に皮むきした芯線を確実に奥まで差し込む。(右図参照)
- ③端子カバーを②と逆の手順で取付け、ゆるめたネジ1本を締め付け固定する。



■結線図(太線部分を結線する)



電源電線をはさず場合



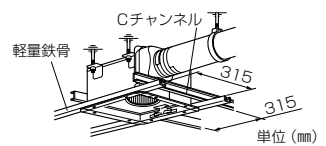
お願い

- 電源電線の外皮は70mm以上皮むきしてください。
- 電線被ふくは10mm皮むきしてください。本体内部の皮むき寸法図に合わせて、皮むきしますと便利です。(10mmを超えてむくと漏電の原因となります)
- より線を結線する場合は、棒状圧着端子(市販品)をより線に取付けてから速結端子に確実に差し込んでください。
- 電源電線は接続部に力が加わらないよう本体付近で約150mmたませ、本体上部のモーターに接触しないようにしてください。
- アース工事の際は、単線φ1.6またはより線1.25mm²をご使用ください。(圧着工具は日本圧着端子製YHT-2210をご使用ください)
- 電源電線を速結端子よりはずす場合は、マイナスドライバーで速結端子のはさしボタン(赤色)を押しながら電源電線を引いてはさしてください。

本体を野縁に据付けている場合は **7 天井材を張る** へつづく

5 軽量鉄骨を組む

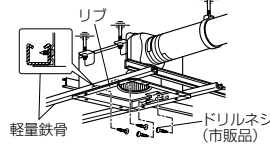
軽量鉄骨と開口部補強用のCチャンネルで内寸が□315mmになるよう据付枠を組む。



6 本体の固定 (メンテナンスができるよう固定)

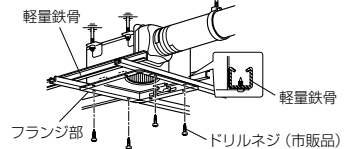
軽量鉄骨がダクト配管と平行な場合

本体内部のリップ(4か所)を利用し、市販のドリルネジ4本で本体を軽量鉄骨に固定する。



軽量鉄骨がダクト配管と垂直な場合

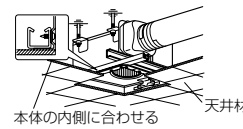
本体フランジ部の据付穴を利用し、市販のドリルネジ4本で本体を軽量鉄骨に固定する。



7 天井材を張る

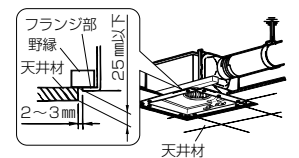
本体を軽量鉄骨に据付ける場合

- (1) 天井材を張る。
- (2) 本体の内寸法に合わせ、天井材に角穴を開ける。



本体を野縁に据付ける場合

- (1) 天井材を張る。
- (2) 本体のフランジ部分と天井材とは必ず2~3mmのすき間があくよう角穴をあける。

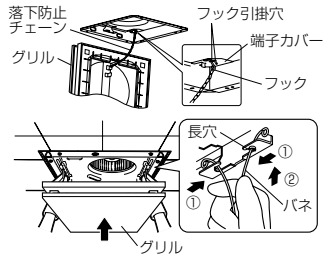


お願い

- 本体固定の際は本体と天井のすき間のないように固定してください。(すき間があると風漏れの原因となります)
- 天井材の厚さは25mm以下で据付けてください。(グリルが天井材に密着しない場合があります)

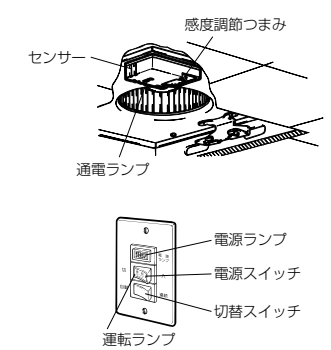
8 グリルの据付け

- (1) 落下防止チェーンのフックを、端子カバーの穴に右図のように引掛ける。
- (2) グリルのパネを指先で縮め長穴に差し込む。(パネは本体側へ片側ずつ差し込むとスムーズに据付けられます)
- (3) 手を放し軽くグリルを押し上げ天井材に密着させる。



5. 試運転

- (1) グリルをはずす。
- (2) 電源スイッチを「入」にし、切替スイッチを「連続」にする。●電源ランプ、運転ランプ、通電ランプが点灯し、換気扇が運転を開始する。
- (3) 切替スイッチを「自動」にする。●約5分間運転したあと、換気扇の運転が停止する。
- (4) 換気扇停止後、換気扇の下で線香を焚くなどして、センサーが煙を検知して運転することを確認する。●煙を検知しても運転しない場合は、取扱説明書の「センサー感度調節」を参照してください。
- (5) 電源スイッチを「切」にして、グリルを元どおり据付ける。



6. 修理を依頼する前に

■試運転時に、次のような症状があれば点検してください。

こんなとき	原因	点検・処置
電源スイッチを入れても羽根が回転しない	分電盤のブレーカーが「切」になっている 正しく結線されていない	ブレーカーを「入」にする 結線を確認する(スイッチ部/電源線接続部) ※換気扇にAC100Vが供給されていることを確認する
運転中に異常な音や振動がする	本体・グリルが確実に据付けられていない	正しく据付け直す
	羽根・グリルに異物が付着している	異物を取り除く
	本体の固定(天吊金具・ネジ止め)が弱い	本体の固定を確認する
	換気風路の抵抗が大きい(ガラリ・アンダーカット)	ガラリ・アンダーカットを開けて給気する
	換気風路の抵抗が大きい(ダクト配管)	ダクトのつぶれ、急な曲がりを修正する
換気風路の抵抗が大きい(屋外フード)	屋外フードのほこりを清掃する(特にリフォーム時)	

三菱電機株式会社

中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号

この説明書は、再生素紙を使用しています。